

いるにもかかわらず上層の長波パターンは非常に共通点を持っている。即ち著しい長波の谷が東支那海から九州方面にあることである。長波の峯の方は西日本より東の方に顕著なものがあることは共通しているが、その位置は第1例のように北海道方面からシベリア東部に延びているもの、第4、5、7例のように日本の東海上からオホーツク海方面へと延びているもの、更に第2、8例のようにカムチャッカ半島方面へ延びているもの到大別される。

台風による地形性豪雨を除いて、近畿地方中部の平地でも100耗を超えるような大雨が降る場合の大部分は上層の長波がこのような3種の型(大きく分類すれば1種)のモデルパターンとなっている場合に起るといってもよいであろう。このことは先に大阪管区気象台予報課で調査された10日平均500mb 年偏差図の分類(11年分の資料による)からもいえる。一般に長波パターンで

西に谷があり東に峯がある場合は雨が降り易いが、ここに示したような極端な例は出現回数も比較的少い。しかしこのようなパターンが出現すると西から進んで来た短波は停滞し、シベリア方面からは強い寒気が、南海上からは湿った暖気が北上して豪雨が起り易いものと考えられる。従って長波の予想パターンを作成して天気予報に訳す場合に、普通の降雨型と豪雨型とは或程度判別出来るのではないかと思われる。

最後にこの研究にご指導を頂いた京都大学の速水頌一郎教授に深く感謝の意を捧げます。また日頃この種の問題について討論をして頂いている大阪管区気象台予報課の皆様にも心からお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 大阪管区気象台予報課, 1961: 10日平均500mb 年偏差図と天候の関係, 日本気象学会関西支部月例会ノート, Vol. 2, No. 1, 17~23.

理化学研究所学術講演会のお知らせ

当会員に講演会の出席依頼がありましたのでお知らせします。

日時: 12月6日(木)~8日(土) 9時半  
場所: 神田学士会館(2階)

主催: 理化学研究所

1962年度理化学研究所学術講演会およびシンポジウム目次

研究発表	12月6日~12月8日	深海研究	12月6日	夜間
特別講演		芳香族第三級アミノキシドの化学		
高分子合成の進歩			12月7日	午前
村橋俊介	12月6日(10.00~12.00)	制ガン抗生物質	〃	午後
サイクロトロンについて		五酸化バナジウムによる酸化	〃	夜間
能谷寛夫	12月8日(〃)	超高エネルギー現象	〃	〃
シンポジウム		フレイットの物理および化学	12月8日	午後
超高速切削の利害	12月6日			午後~夜間

講演時間割

日	午 前	午 後	夜 間
12月6日 (木)	特別講演 精密工学	シンポジウム 生化学・海洋 弾性・塑性 化学・工学 有機化学	シンポジウム
12月7日 (金)	シンポジウム 固体物理 無機化学	シンポジウム 放射線 核子線 宇宙線 化学	シンポジウム
12月8日 (土)	特別講演 有機化学 マイクロ波物理・核融合	シンポジウム 有機化学 質量分析	

~詳細についてのお問い合わせは普及課へ(941)1141(内線29)